

# 『聖なる観自在の如意宝珠』のチベット語訳校訂テキスト および和訳 —如意輪観音の名称に関する新出資料—

徳重 弘志

## はじめに

如意輪観音の名称に関する先行研究においては、同尊格に関する根本経典のサンスクリット写本が現存せず、チベット語訳も未発見であったため、①「漢訳経典」(4本)、②「漢訳経典からチベット語訳された重訳」(2本)、③「ソグド語訳の断片」、④「ウイグル字銘文」、⑤「チベット語訳された成就法」、といった資料が用いられてきた。しかし、資料的な制約から、この尊格の梵語の名称については、未だに明確には解明されていない。

幸いにも筆者は、同尊格に関する根本経典のチベット語訳が、プダク写本チベット大蔵経に収録されていることを、このたび発見することができた。この『聖なる観自在の如意宝珠』(*'Phags pa spyan ras gzigs dbang phyug gi yid bzhin nor bu*, Ph no. 508)<sup>1</sup>は、漢訳経典からの重訳とは明らかに異なるものであり、管見のおよぶ限りでは、プダク写本以外の諸版には収録されていない。

本稿では、関連資料の特徴を概観した後、初期密教経典である『聖なる観自在の如意宝珠』によって判明した如意輪観音の名称に関する新知見を報告した上で、関連資料の校訂テキストおよび和訳を提示したい。

## 1 関連資料の特徴

如意輪観音の名称に関する資料としては、①「漢訳経典」(4本)、②「漢訳経典からチベット語訳された重訳」(2本)、③「ソグド語訳の断片」、④「ウイグル字銘文」、⑤「チベット語訳された成就法」、⑥『聖なる観自在の如意宝珠』、といった6種類が挙げられる。

①「漢訳経典」に関しては、西暦700年頃に相次いで翻訳された複数の類本が現存している<sup>2</sup>。具体的には、菩提流志訳(709年)、義浄訳(710年)、實叉難陀訳(699-700年)、寶思惟訳(706年までに翻訳)、といった4本である。これらの類本は、その章構成や文章量に従って、略本(義浄訳、寶思惟訳)と広本(菩提流志訳、實叉難陀訳)とに二分することができる。大塚[2013] pp. 757-760は、これらの4本が「義浄訳→寶思惟訳→實叉難陀訳→菩提流志訳」の順に増広されていることから、同様の順序で成立したと指摘している。

②「漢訳経典からチベット語訳された重訳」に関しては、先行研究では等閑に付き

れてきた<sup>3</sup>。重訳は、デルゲ版チベット大蔵経においては、rgyud 'bum（十萬怛特羅部）とgzungs 'dus（陀羅尼集）に1本ずつ収録<sup>4</sup>されており、どちらの訳者もChos grub（法成，9世紀前半頃）<sup>5</sup>である。このD no. 692とD no. 898を比較したところ、両者に大きな差異は存在しないことが判明した<sup>6</sup>。また、重訳全体を確認した結果、その章構成や用いられている語句から判断して、實叉難陀訳からチベット語に翻訳されたということが明らかになった。

③「ソグド語訳の断片」に関しては、岩本 [1978] p. 171 が指摘するように、實叉難陀訳の一部分（T no. 1082: 199b13–c27）に相当する。

④「ウイグル字銘文」に関しては、中央アジアから出土した幡画に記されている。当該の銘文は、経典と直接的に関係する内容ではなく、施主が如意輪観音の姿を職人に描かせたことなどについて記されている。森安 [2000] pp. 130–131 は、銘文の書体を根拠として、当該の幡画は10世紀後半～11世紀前半に制作されたと指摘している。

⑤「チベット語訳された成就法」とは、Jitāri（10世紀後半～11世紀前半）の著作<sup>7</sup>である'*Phags pa 'jig rten dbang phyug gi yid bzhin gyi nor bu 'khor los sgyur ba'i sgrub thabs*」のことである。

⑥『聖なる観自在の如意宝珠』に関しては、プダク写本チベット大蔵経にのみ収録されている<sup>8</sup>。筆者が同経典全体を確認し、漢訳との対応関係を調査したところ、用いられている語句などから判断して、寶思惟訳と近い内容を有していることが判明した。

また、上述の資料①②⑥における章構成を、最も発達した内容を有する「菩提流志訳」（全10章）を基準として整理したものが、以下の一覧表である<sup>9</sup>。

Tib.		Ch.			
Ph	重訳	義淨	寶思惟	實叉難陀	菩提流志
○	○	○	○	○	第1章
○	○	○	○	○	第2章
○	○	○	○	○	第3章
×	×	×	×	×	第4章
×	×	×	×	×	第5章
×	○	×	○	○	第6章
×	○	×	×	○	第7章
×	○	×	○	○	第8章
×	○	×	○	○	第9章
×	○	○	○	○	第10章

筆者は、上記の結果を踏まえて、現存する関連経典の中で最も成立が早いのは、⑥『聖なる観自在の如意宝珠』であると判断している。先述したように、資料⑥と最も内容が近いのは、寶思惟訳である。そのため、義淨訳と寶思惟訳とでは、前半部分に限れば、

寶思惟訳の方がより古い内容を保っていると考えられる。

さて、SAMTEN [1992] p. xxv は、資料⑥が『デンカルマ目録』(*lDan dkar ma*, 824年)に記載されていると指摘している。筆者は、その主張の妥当性を検証するために、『デンカルマ目録』、『パンタンマ目録』(*'Phang thang ma*, 818 or 830年<sup>10</sup>)、bCom ldan ral gri (1227–1305年)<sup>11</sup>の大蔵経目録(1260年代後半～1270年代前半)<sup>12</sup>、『プトゥン仏教史』の目録部(1322年)、といった4種類の目録を調査した。その結果、当該の經典と関連する蓋然性が高い、以下の記述を見出すことができた。なお、各項目の冒頭のno. は、各々の目録で付されたものである。

[A]: 『デンカルマ目録』(LALOU [1953] p. 327)

- no. 343: *sPyan ras gzigs yid bzhin 'khor lo sgyur ba'i gzungs* | (240 śloka)
- no. 352: *sPyan ras gzigs dbang phyug yid bzhin gyi nor bu 'khor lo sgyur ba'i gzungs* | (105 śloka)

[B]: 『パンタンマ目録』(川越 [2005a] p. 19)

- no. 312: *'Phags pa spyan ras gzigs dbang phyug yid bzhin gyi nor bu 'khor lo sgyur ba'i gzungs sngags cho ga dang bcas pa* | (105 śloka)

[C]: bCom ldan ral gri の大蔵経目録 (SCHAEFFER and van der KUIJP [2009] p. 141)

- no. 8.18: *sPyan ras gzigs yid bzhin nor bu || 'khor los bsgyur ba rgya gar nas bsgyur ba la nyi brgya bzhi bcu ||* (240 śloka)<sup>13</sup>

[D]: 『プトゥン仏教史』の目録部(西岡 [1983] p. 58)

- no. 1158: *sPyan ras gzigs yid bzhin nor bu 'khor los bsgyur ba'i gzungs* (105 śloka)

筆者は、上記の結果を踏まえて、チベットにおいては「105 śloka の略本」と「240 śloka の広本」の2系統が伝承されていたと判断した。その上で、現存する經典の文章量<sup>14</sup>を根拠として、「105 śloka の略本」が⑥『聖なる観自在の如意宝珠』と、「240 śloka の広本」が②「漢訳經典からチベット語訳された重訳」と、それぞれ対応すると推定した<sup>15</sup>。

## 2 如意輪観音の名称

如意輪観音の梵語の名称に関しては、前述した資料①③④⑤を根拠とした、2種類の仮説が提示されている<sup>16</sup>。一方は、Cakravarti-cintāmaṇi という仮説であり、資料①③④が根拠となっている。他方は、Avalokiteśvara-cintāmaṇi-cakravartin という仮説であり、資料⑤が根拠となっている。以下に、それらの説の詳細を提示した上で、資料⑥によって判明した新知見を報告したい。

第一に、Cakravarti-cintāmaṇi という説を提唱したのは、岩本 [1978] である。同氏は、それ以前に提唱されていた Cintāmanicakra という表記が資料②のチベット語から機械的

に還梵されたものであることを指摘した上で、資料①における音写で記された如意輪観音の「根本ダラニ」と、資料③におけるソグド語で記された第5章末部の章名とを根拠として、Cakravarti-cintāmaṇi という語形を復元し、「どこへでも自由自在に転がっていつて、衆生の願いを何事でも聴きとどけてくれる者」と解釈した<sup>17</sup>。また、朴 [2001a] p. 75 は、「どこにでも転がっていく如意宝珠をもつもの」と捉えている。さらに、佐久間 [2015] pp. 137-138 は、「転輪聖王の如意宝珠をもつもの」と解釈することも可能であると指摘している。

この説を補強するのが、森安 [2000] が発見した資料④である。当該の資料には、「私どもはこのチャクラヴァルティ=チンタマニ菩薩 čkrvrtičintaman-i bodisvt (=如意輪観音) の像を(職人に命じて)描かせて(奉納させて)いただきました<sup>18</sup> というウイグル語で記された一文が存在する。

第二に、Avalokiteśvara-cintāmaṇi-cakravartin という説を提唱したのは、白崎 [1980] である。同氏は、資料⑤における音写で記された如意輪観音の「根本ダラニ」<sup>19</sup> に、cintāmaṇi-cakravarti という語句が含まれていることを根拠として、Avalokiteśvara-cintāmaṇi-cakravartin という名称を想定した<sup>20</sup>。なお、佐久間 [2011] p. 58 は、cintāmaṇi-cakravarti という複合語を、「如意宝珠と輪を転がすものよ」と解釈している。

第三に、筆者が発見した資料⑥によって判明した新知見を報告する。まず、同經典の場合、通常であれば經典の冒頭に存在するはずの「経題のサンスクリット語による表記」が欠落している。ただし同經典には、本稿における校訂テキストの【3.4】の箇所、如意輪観音の「根本ダラニ」が以下のように記されている。

【Tib.】

na mo rad na tra yā ya | na ma ārya a ba lo ki te shwa rā ya | bo dhi sa twā ya | ma hā sa twā ya | ma hā kā ru ṇi kā ya | tad ya thā | oṃ tsakra ba rti tsin tā ma ṇi | ma hā pad me ru ru tiṣṭha te | dzwa la | ā kar ṣā ya hūṃ phaṭ swā hā |

【還梵】

namo ratnatrayāya | nama āryāvalokiteśvarāya bodhisattvāya mahāsattvāya mahākāruṇikāya | tadyathā | oṃ cakravartiacintāmaṇi | mahāpadme ru ru tiṣṭhate | jvala | ākarṣāya hūṃ phaṭ svāhā |

【和訳】

三宝に帰依いたします。非常に慈悲深き聖なる観自在菩薩・摩訶薩に帰依いたします。それは次の通りである。オーン、転輪王の如意宝珠を持つ者よ。大いなる蓮華の上に、ル、ル、彼は住する。光焰よ。鉤召のために、フーン、パット、スヴァーハー。

このように、資料⑥は、如意輪観音の梵語の名称が Cakravarti-cintāmaṇi であるという説を支持している。他方、資料⑤における cintāmaṇi-cakravartin という複合語に関しては、資料⑥に「観自在の蓮華[の蕾の形状の]<sup>21</sup>如意宝珠の輪<sup>22</sup>を回すものと名づけるダラニ」

(【3.2】) や、「観自在の蓮華〔の蕾の形状〕の如意宝珠の輪を回すものという心呪」(【3.3】) という用例が存在することから、「如意宝珠の輪を回す者」と解釈することも可能である。つまり、*cintāmaṇi-cakravartin* という語句に関しては、元々は「如意宝珠の輪を回す者」を意味していたが、後代に「如意宝珠と輪を転がす者」と解釈されるようになり、「如意宝珠」と「輪」を持物とする仏像が作成されるに至った、という可能性が想定できる。

### 3 チベット語訳校訂テキストおよび和訳

#### 凡例

- (1) 本稿では、①プダク写本チベット大蔵経にのみ現存する『聖なる観自在の如意宝珠』、②他の諸版に収録された漢訳からの重訳、という2種類のチベット語訳校訂テキストを提示する。なお紙幅の都合上、①に関しては経典全体を扱うが、②に関しては①と対応する範囲のみを扱った。また、①に関してのみ、当該の校訂テキストに基づいて、和訳を行った。
- (2) ①に関しては、プダク写本を底本とした上で、対応する漢訳や重訳と校合して適切と思われる読みを採用した。②に関しては、デルゲ版チベット大蔵経では *rgyud 'bum* と *gzungs 'dus* に重訳が一本ずつ収録されているが、両者は非常に近似した内容であるため、デルゲ版と北京版 (*rgyud 'bum* =  $D_1 P_1$ ; *gzungs 'dus* =  $D_2 P_2$ ) に基づく両者を統合した校訂テキストを作成した<sup>23</sup>。
- (3) 佐藤 [2008] p. 77 が指摘するように、プダク写本の綴り字には、[A] 添前字「b」の脱落 (例: *bsngags* → *sngags*)、[B] 添前字「b」と「g」の交替 (例: *bzhin* → *gzhin*)、[C] 添前字「'」の「m」への変化 (例: *'dzum* → *mdzum*)、などの特徴が見られる。これらは誤字とは言えないが、校訂における都合上、一般的な綴り字に改めた。
- (4) 校訂テキストでは、異なる写本におけるシェー (*shad*) の異同については報告しない。また、略字 (*bsdus yig*) については、その原型を報告することなく、正規形で示した。
- (5) 校訂テキストにおいては、内容を考察した上で、独自の段落分けを行い、隅付括弧【 】内に通番を示した。また、角括弧〔 〕内に適切と思われる小見出しを示した。
- (6) 校訂テキストの異読に関する後注においては、各注記の始めに採用する読みを示し、記号( )を挟んでその読みを支持する諸版の略号を示した。また、採用する読みと異読、あるいは複数の異読同士は、セミコロン( ; )で区切った上で、その読みを支持する諸版の略号を示した。
- (7) 和訳においては、亀甲括弧〔 〕内に筆者が補った語句を示した。また、丸括弧( )内に訳語の原語や言い換えなどを示した。

## 校訂テキスト

## 【1】 [経題]

【Tib. (Ph)】 (Ph 114v7–8) (T no. 1083: 200b3)

*'Phags pa spyan ras gzigs dbang phyug gi pad ma yid bzhin gyi 'khor los sgyur ba zhes bya ba'i gzungs ||*

【Tib. (重訳)】 (D<sub>1</sub> 129v7, D<sub>2</sub> 205r5–6, P<sub>1</sub> 1v1–2, P<sub>2</sub> 204r4–5) (T no. 1082: 197b22–23)

bod skad du |<sup>24</sup> *'Phags pa spyan ras gzigs dbang phyug gi gsang ba'i mdzod thogs pa med pa'i*<sup>25</sup> *yid bzhin gyi 'khor lo'i snying po zhes bya ba'i gzungs |*

## 【2】 [帰敬文]

【Tib. (Ph)】 (Ph 114v8)

sangs rgyas dang byang chub sems dpa' thams cad la phyag 'tshal lo ||

【Tib. (重訳)】 (D<sub>1</sub> 129v7, D<sub>2</sub> 205r6, P<sub>1</sub> 1v2–3, P<sub>2</sub> 204r5)

sangs rgyas dang byang chub sems dpa' thams cad la phyag 'tshal lo ||

【3】 [第1章]<sup>26</sup>

## 【3.1】 [六成就]

【Tib. (Ph)】

(欠)

【Tib. (重訳)】 (D<sub>1</sub> 129v7–130r1, D<sub>2</sub> 205r6–7, P<sub>1</sub> 1v3–5, P<sub>2</sub> 204r5–6)

(T no. 1082: 197b27–28)

'di skad bdag gis thos pa<sup>27</sup> dus gcig na | bcom ldan 'das drang srong gi ri la byang chub sems dpa' sems dpa' chen po'i tshogs mang po dang thabs gcig<sup>28</sup> tu bzhugs te |

## 【3.2】 [観自在の発言]

【Tib. (Ph)】 (Ph 115r1–6) (T no. 1083: 200b6–12)

de nas bcom ldan 'das la byang chub sems dpa' sems dpa' chen po 'phags pa spyan ras gzigs dbang phyug gis 'di skad ces gsol to ||

bcom ldan 'das *Rig sngags kyi cho ga rgyas pa'i dkyil 'khor chen po'i pad ma'i rtse mo'i gsang sngags kyi rgyud* 'di la bdag gi snying po dam tshig gi byin gyis<sup>29</sup> brlabs gsang ba gzhan gyis mi tshugs pa | *sPyan ras gzigs gi*<sup>30</sup> *pad ma yid bzhin gyi nor bu'i 'khor los bsgyur ba zhes bya ba'i gzungs | 'phags pa spyan ras gzigs dbang phyug gi*<sup>31</sup> *snying po 'grub ba'i mchog mchis te | bcom ldan 'das bdag gis sems can thams cad kyi don grub pa'i mchog ste | bcom ldan 'das kyi spyan sngar brjod par 'tshal na de'i slad du bcom ldan 'das bdag gis*<sup>32</sup> *rig sngags 'chang thams cad kyi rin po che'i char chen po rnam byin gyis*<sup>33</sup> *brlabs du gsol || 'on kyang dpag tshad tsam gyi shing chen po lta bu dang | yid bzhin gyi*

nor bu ltar sems can thams cad kyi bsam pa yongs su rdzogs par bgyid par 'gyur lags so ||  
 【Tib. (重訳)】(D<sub>1</sub> 130r1-4, D<sub>2</sub> 205r7-v3, P<sub>1</sub> 1v5-2r3, P<sub>2</sub> 204r6-v2) (T no. 1082: 197b28-c5)  
 de nas byang chub sems dpa' sems dpa' chen po spyān ras gzigs dbang phyug stan las lang  
 te | gos tshags bcos nas pus mo sa<sup>34</sup> la btsugs te | thal mo sbyar nas bcom ldan 'das la 'di  
 skad ces gsol to ||

bcom ldan 'das bdag la padma du ma<sup>35</sup> chen po'i tsandana<sup>36</sup> gyi snying po'i 'khor lo zhes  
 bgyi ba'i gzungs chen mo smon cing bgyi ba thams cad mngon<sup>37</sup> par 'grub par bgyi ba  
 mchis te | gal te de bzhin gshegs pa'i thugs rje chen pos bdag gis bshad par gnang na |  
 bdag bcom ldan 'das kyi byin gyis brlabs<sup>38</sup> kyi mthus sems can thams cad la sman par bgyi  
 ba'i slad du bshad par 'tshal lags so || de ci'i slad du zhe na | bcom ldan 'das gzungs 'di ni  
 gzi byin chen po'i mthu dang ldan pas yid bzhin gyi nor bu rin po che chen po dang | yid  
 bzhin gyi ljon shing bzhin du smon pa thams cad yongs su rdzogs par bgyid pas so ||

### 【3.3】〔世尊の発言①〕

【Tib. (Ph)】(Ph 115r6-8) (T no. 1083: 200b12-14)

bcom ldan 'das kyis<sup>39</sup> bka' stsal pa |

spyān ras gzigs dbang phyug ngas byin gyis brlabs zin gyis | spyān ras gzigs dbang phyug gi<sup>40</sup>  
 pad ma'i yid bzhin gyi nor bu'i 'khor los<sup>41</sup> bsgyur ba'i snying po gzhan gyis mi tshugs<sup>42</sup> pa  
 bsam pa dang | re ba thams cad yongs su rdzogs par byed pa<sup>43</sup> mngon du shod cig<sup>44</sup> |

【Tib. (重訳)】(D<sub>1</sub> 130r4-5, D<sub>2</sub> 205v3-4, P<sub>1</sub> 2r3-5, P<sub>2</sub> 204v2-3) (T no. 1082: 197c5-7)

de nas bcom ldan 'das kyis byang chub sems dpa' spyān ras gzigs dbang phyug la legs so  
 legs so zhes bsngags pa brjod nas |

khyod kyis snying brtse ba'i phyir sems can gyi ched du 'di ltar zhugs pas na khyod thogs  
 pa med pa'i gzungs 'di bshad par gnang bar bya'o ||

### 【3.4】〔観自在によるダラニの説示〕

【Tib. (Ph)】(Ph 115r8-v4) (T no. 1083: 200b14-28)

de nas byang chub sems dpa' sems dpa' chen po 'phags pa spyān ras gzigs dbang phyug gis  
 bcom ldan 'das kyi zhabs la mgo bos phyag 'tshal te | bcom ldan 'das la lan gsum bskor ba  
 byas nas | bcom ldan 'das kyi spyān sngar 'dug ste | bzhin<sup>45</sup> 'dzum<sup>46</sup> zhing mdangs phyung  
 ba'i mig dang ldan pas snying rje chen po'i rig sngags kyi rgyal mo'i snying po smras pa |

na mo rad na tra yā ya | na ma ārya<sup>47</sup> a ba lo ki te shwa rā<sup>48</sup> ya | bo dhi sa twā<sup>49</sup> ya | ma hā  
 sa twā<sup>50</sup> ya | ma hā kā<sup>51</sup> ru ṇi kā<sup>52</sup> ya | tad ya<sup>53</sup> thā | om tsakra ba rti tsin tā<sup>54</sup> ma ṇi<sup>55</sup> | ma hā  
 pad me ru ru tiṣṭha te |<sup>56</sup> dzwa<sup>57</sup> la | ā kar s̄ā ya<sup>58</sup> hūm phaṭ swā hā |

rta ba'i sngags so ||

om pad ma tsin tā<sup>59</sup> ma ṇi dzwa la hūm |

snying po'o |

om ba ra da<sup>60</sup> pad me hūṃ |  
nye ba'i snying po'o ||

【Tib. (重訳)】 (D<sub>1</sub> 130r5–v1, D<sub>2</sub> 205v4–7, P<sub>1</sub> 2r5–8, P<sub>2</sub> 204v3–6) (T no. 1082: 197c7–20)

byang chub sems dpa' spyān ras gzigs dbang phyug de ltar bkas gnang ba dang | langs nas  
thal mo sbyar te phyag byas nas slar stan la 'dug ste<sup>61</sup> | sems rtse gcig tu 'khor 'dus<sup>62</sup> pa dag  
la nman par bltas nas snying rje chen po dang ldan pa'i sems kyis sngags 'di smras so ||  
na mo ratna<sup>63</sup> tra yā ya | na ma āryā ba lo ki te shwa rā ya | bo dhi<sup>64</sup> satwā<sup>65</sup> ya | ma hā  
satwā<sup>66</sup> ya | ma hā kā<sup>67</sup> ru ṇi kā ya | tadya thā | om tsakra barti tsintā<sup>68</sup> ma ṇi | ma hā<sup>69</sup> padme<sup>70</sup>  
ru ru tiṣṭha<sup>71</sup> te<sup>72</sup> | badzra bha ra | ā ka rā ya<sup>73</sup> hūṃ swā hā<sup>74</sup> |  
'di ni lus kyī sngags lags so ||  
om padme | tsintā ma ṇi<sup>75</sup> ma hā<sup>76</sup> badzra bha ra<sup>77</sup> hūṃ |  
'di ni snying po'i sngags lags so ||  
om bha ra ta padme<sup>78</sup> hūṃ |  
'di ni snying gi snying po'i sngags lags<sup>79</sup> so ||

### 【3.5】 [ダラニの威力]

【Tib. (Ph)】 (Ph 115v4–116r3) (T no. 1083: 200b29–c9)

de nas 'khor lo bsgyur ba chen po'i gzungs chen po bshad ma thag tu sa chen po 'di nman pa  
drug tu g-yos so || lha'i gnas thams cad kyang rab tu g-yos so || klu'i gnas thams cad kyang  
bshig<sup>80</sup> byed par 'gyur ro || gnod sbyin dang | dri za dang | lha ma yin dang | nam mkha'  
lding dang | mi 'am ci dang | lto 'phye<sup>81</sup> chen po'i gnas thams cad kyang 'gul to || bdud dang  
ma rungs<sup>82</sup> pa thams cad | bgegs dang log par<sup>83</sup> 'dren pa rnams kyang bsngags<sup>84</sup> so || bdud  
kyi gnas thams cad kyang kun tu 'bar bar 'gyur ro || sems can ma rungs<sup>85</sup> ba rnams dang | klu  
ma rungs<sup>86</sup> ba rnams dang | gsang ba pa ma rungs pa rnams dang | srin mo drag shul can de  
dag ni khab phub du bsgyel lo || sems can dmyal ba thams cad kyang nman par zhig cing ral  
te | rmeg med par gyur to || dmyal ba pa'i sems can de dag kyang yongs su thar nas | mtho  
ris kyī 'jig rten dong ste | bcom ldan 'das kyī spyān<sup>87</sup> sngar lha'i mchod pa'i sprin sna tshogs  
kyī char phab po || lha'i me tog dang | bdug pa dang | gos kyī rgyan dang | spos dang | phreng  
ba dang | byug pa sna tshogs kyī char rab tu babs so || nam mkha' la yang lha'i rol mo'i sgra  
grags par gyur te | bcom ldan 'das la mchod pa'i las byed do ||

【Tib. (重訳)】 (D<sub>1</sub> 130v1–5, D<sub>2</sub> 205v7–206r4, P<sub>1</sub> 2r8–v5, P<sub>2</sub> 204v6–205r3)

(T no. 1082: 197c21–28)

de'i tshe byang chub sems dpa' spyān ras gzigs dbang phyug gis yid bzhin 'khor lo'i gzungs  
'di smras pa dang | sa chen po yang nman pa drug tu<sup>88</sup> rab tu g-yos par gyur<sup>89</sup> | lha dang | klu  
dang | gnod sbyin dang | dri za dang | lha ma yin dang | nam mkha' lding dang | mi 'am<sup>90</sup> ci  
dang | lto 'phye chen po la sogs pa'i khang khyim rnams kyang rab tu g-yos par gyur | bdud  
kyi rgyal po dang | bdud kyī 'khor rnams kyang shin tu skrag cing 'jigs pa chen po skyes par



gyur | bdud kyi rgyal po'i gzhal med khang yang rab tu 'bar bar gyur | gnod sbyin dang | 'dre  
 srin ma rungs pa gzhan rnam pa sna tshogs kyang dngangs shing<sup>91</sup> skrag pas gdong bkab ste  
 | sa la 'gyel bar gyur<sup>92</sup> | sems can dmyal ba'i sgo thams cad kyang phye nas sdug bsngal ba'i  
 sems can rnams thar te | lha'i bde ba mchog myong bar gyur to || de'i tshe lha rnams kyi  
 kyang rin po che'i me tog dang | rin po che'i rgyan gyi yo byad rnam pa sna tshogs kyi char  
 mngon par phab par gyur | lha'i rol mo rnams kyang bar snang la sgra sna tshogs phyung ste  
 | de bzhin gshegs pa la mchod par<sup>93</sup> byas par gyur to ||

### 【3.6】〔世尊の発言②〕

【Tib. (Ph)】 (Ph 116r3–5) (T no. 1083: 200c9–11)

de nas bcom ldan 'das kyi de bzhin gshegs pa'i gsung ka la bing<sup>94</sup> ka'i skad ltar gdangs  
 snyan cing zab pas | byang chub sems dpa' sems dpa' chen po 'phags pa spyen ras gzigs  
 dbang phyug la legs so zhes bya ba byin te |

spyen ras gzigs dbang phyug legs so legs so || rig sngags kyi rgyal po bshad pa 'di ni  
 mchog tu bkod pa dang | mchog tu dam pa sbyin par byed pa yin gyis | sems chen<sup>95</sup> po yi  
 sems can thams cad kyi don du cho gar bya ba rgyas par shod cig |

【Tib. (重訳)】 (D<sub>1</sub> 130v5–7, D<sub>2</sub> 206r4–6, P<sub>1</sub> 2v5–8, P<sub>2</sub> 205r3–6) (T no. 1082: 197c28–198a4)

de nas bcom ldan 'das<sup>96</sup> tshangs pa'i dbyangs kyi tshigs su bead de | byang chub sems dpa'  
 sems dpa' chen po spyen ras gzigs dbang phyug la |

rigs kyi bu khyod sems can la snying brtse ba'i phyir gzungs 'di bshad pa nyid kyi sems  
 can rnams kyi<sup>97</sup> phan yon chen po thob par 'gyur ba | legs so legs so  
 zhes bsngags<sup>98</sup> pa brjod do || de nas bcom ldan 'das kyi yang byang chub sems dpa' spyen  
 ras gzigs dbang phyug la 'di skad ces bka' stsal to ||

rigs kyi bu sems can rnams kyi<sup>99</sup> phyir rdzu 'phrul gyi rgyal po chen po'i gzungs 'di'i cho  
 ga<sup>100</sup> shod cig |

### 【3.7】〔観自在による儀軌の説示〕

#### 【3.7.1】〔儀軌の実修方法〕<sup>101</sup>

【Tib. (Ph)】 (Ph 116r5–v2) (T no. 1083: 200c11–17)

de nas byang chub sems dpa' sems dpa' chen po spyen ras gzigs dbang phyug<sup>102</sup> gis cho gar  
 bya ba bshad pa |

bcom ldan 'das rigs kyi bu'am<sup>103</sup> | rigs kyi bu mo'am<sup>104</sup> | dge slong ngam | dge slong  
 ma'am<sup>105</sup> | dge bsnyen nam | dge bsnyen ma'am<sup>106</sup> | su yang rung ba 'bras bu mod la thob  
 par 'tshal bas | yid bzhin gyi nor bu'i phyag rgya la mngon par brtson par bgyi'o ||

tshes grangs rgyu skar sbyar mi 'tshal || smyung<sup>107</sup> ba'i cho ga bgyi mi 'tshal ||  
 khrus dang gos gsar bgo mi 'tshal || de bzhin bsgrub pa'i cho ga med ||  
 bklags pa nyid kyis 'grub 'gyur te || bzlas brjod tsam gyis the tshom med ||

las ni stong dang de bzhin du || las ni brgya yang bgyid 'gyur te ||  
 yid bzhin nor bu lta bu yi || rig sngags mtshungs pa 'ga' ma mchis ||

【Tib. (重訳)】 (D<sub>1</sub> 130v7–131r3, D<sub>2</sub> 206r6–v2, P<sub>1</sub> 2v8–3r5, P<sub>2</sub> 205r6–v1)

(T no. 1082: 198a4–10)

de nas bcom ldan 'das la byang chub sems dpa' spyang ras gzigs dbang phyug gis 'di skad ces  
 gsol to ||

rigs kyī bu'am<sup>108</sup> | rigs kyī bu mo'am<sup>109</sup> | dge slong ngam | dge slong ma'am<sup>110</sup> | dge bsnyen  
 nam | dge bsnyen ma'am<sup>111</sup> | khye'u'am<sup>112</sup> | bu mo gzhon nu gang la la zhig gis tshe 'di  
 nyid la rnam par smin pa mngon du myong bar 'tshal na | gdugs mtshan sems rtse gcig tu  
 nan tan brtson 'grus kyis gzungs 'di mi bskyud par bgyis te | gdugs dang dus mi 'dam par  
 gtsang yang rung | mi gtsang<sup>113</sup> yang rung ste | g-yar ston du bzlas par gyur<sup>114</sup> na bgyi ba  
 rnams don dang ldan par 'gyur lags so || ci yang rung ste | don du bgyi zhing gnyer ba zhig  
 mchis na lan brgya rtsa brgyad bzlas brjod bgyis na don brgya stong du ma 'grub par 'gyur  
 bas | rig sngags gzhan gang yid bzhin gyi 'khor lo'i gzungs 'di dang bskrun<sup>115</sup> par bzod pa  
 gang yang ma mchis lags so ||

【3.7.2】 [ダラニの効験①：悪業と障碍の除去]

【Tib. (Ph)】 (Ph 116v2–4) (T no. 1083: 200c17–20)

sngon gyi sgrib pa bsags pa dang || sngon gyi sdig pa zad 'gyur te ||  
 de phyir bzlas brjod byas tsam gyis || don rnams thams cad 'grub par 'gyur ||

btan pa tsam gyis mnar med par || mchi ba yi ni sdig pa rnams ||  
 'phral du rnam par dag par 'gyur ||

mtshams med pa'i sdig pa dang sgrib pa yongs su byang zhing gtan nas zad par 'gyur ||  
 thams cad ma lus par zad par 'gyur ||

【Tib. (重訳)】 (D<sub>1</sub> 131r3–5, D<sub>2</sub> 206v2–4, P<sub>1</sub> 3r5–7, P<sub>2</sub> 205v1–3) (T no. 1082: 198a10–13)

de ci'i<sup>116</sup> slad du zhe na | 'das pa dang da ltar gyi las ngan pa dang | sgrib pa lci ba rnams  
 rab tu 'joms pas so || gang la la zhig gzungs 'di bzlas brjod bgyis na mnar<sup>117</sup> ma mchis pa'i  
 dmyal bar ltung bar 'gyur ba'i rigs<sup>118</sup> dag kyang thar bar 'gyur la | mtshams ma mchis pa  
 lnga la sogs pa'i sdig pa<sup>119</sup> rnams kyang 'byang bar 'gyur na | las ngan pa dang gdon bgegs  
 dang bro nad gzhan thams cad lta<sup>120</sup> smos kyang ci 'tshal lags |

## 【3.7.3】 [ダラニの効験②：病の回避]

【Tib. (Ph)】 (Ph 116v4–117r1) (T no. 1083: 200c20–22)

nad thams cad las thar bar 'gyur lags so || bton pa tsam gyis rims zhag gcig pa dang | zhag gnyis pa dang | zhag gsum pa dang | zhag bzhi pa dang | rlung las gyur pa dang | mkhris pa las gyur pa dang | bad kan las gyur pa dang | 'dus pa las gyur pa dang | rtag pa'i rims dang | rims ldan<sup>121</sup> dub pa dang | mtshan mo'i rims dang | nyin mo'i rims thams cad la yongs su thar bar 'gyur | mda' dug dang | sbyar dug dang | byad stems<sup>122</sup> thams cad kyis mi tshugs par 'gyur ro || gzhan yang 'bras dang | phol mig dang | lhog pa dang | rkang shu dang | g-yan pa dang | mdze dang | sha bkra dang | rlung nad dag gis mi tshugs par 'gyur lags so || gzhan yang nams kyang so na ba dang | mig na ba dang | kha na ba dang | yan lag na ba dang | nying lag na ba dang | lto na ba dang | klad pa na ba dang | gzhogs<sup>123</sup> phyed na bas mi tshugs par 'gyur ||

【Tib. (重訳)】 (D<sub>1</sub> 131r5–v1, D<sub>2</sub> 206v4–207r1, P<sub>1</sub> 3r7–v3, P<sub>2</sub> 205v3–7)

(T no. 1082: 198a13–19)

gang dag rims<sup>124</sup> nad nyin gcig pa dang | nyin gnyis pa dang | nyin gsum pa dang | nyin bzhi pa dang | nyin mtshan du bro 'tshal ba'am<sup>125</sup> | rlung dang mkhris pa'am<sup>126</sup> | bad kan la sogs pas bro 'tshal<sup>127</sup> ba dag la rig sngags 'di bzlas brjod bgyis par gyur na thams cad 'byang zhing sos par 'gyur lags so || gang zhig dug dang byad stems kyis<sup>128</sup> phog par gyur tam | lhog pa dang g-yan pa dang mdze nad dam<sup>129</sup> | phol mig gam | rlung nad dam | smyos pa'am<sup>130</sup> | klad<sup>131</sup> pa bro 'tshal ba'am<sup>132</sup> | rna ba dang | sna dang | mchu dang | lce dang | mid pa dang | kha dang | gdong dang | gtsug dang | klad<sup>133</sup> rgyas dang | brang dang | rtsib logs dang | snying dang | lto ba dang | rked pa dang | rgyab dang | rkang pa dang | lag pa la sogs pa thams cad bro 'tshal<sup>134</sup> bar gyur na yang thams cad sos par bgyid | ji tsam du lus kyi bro nad ci mchis pa thams cad kyang sos par bgyid lags so ||

## 【3.7.4】 [ダラニの効験③：身体の保護]

【Tib. (Ph)】 (Ph 117r1–6) (T no. 1083: 200c22–25)

lus la gdon gyis mi tshugs par 'gyur | gnod sbyin dang | srin po dang | 'byung po dang | sha za dang | mkha' 'gro ma 'dod bsgyur<sup>135</sup> ba'i gzugs can dang | bgegs dang | log 'dren dang | bdud kyi rigs kyis nams kyang bklags rnyed par mi 'gyur | lus la mang dug dang mtshon dang me dang chu dang | rlung dang | lce 'bab pas mi tshugs par 'gyur ro || rkun po'i 'jigs pa dang | chom rkun gyi 'jigs pa dang | rgyal po'i 'jigs pa dang | pha rol gyi dmag tshogs kyi<sup>136</sup> 'jigs pa dang | phyir rgol ba'i<sup>137</sup> 'jigs pa dang | mi mdza' ba'i<sup>138</sup> 'jigs pa dang | dgra'i 'jigs pa mi 'byung | dus ma yin pa'i mchi ba'i<sup>139</sup> 'jigs pa mi 'byung | rmi lam ngan pa rmis par mi 'gyur | sdig pa'i 'jigs pa dang | sbrul gdug pa'i 'jigs pa dang | sred med kyi<sup>140</sup> 'jigs pa mi 'byung | gcan zan khro bo'i 'jigs pa mi 'byung ||

【Tib. (重訳)】 (D<sub>1</sub> 131v1-4, D<sub>2</sub> 207r1-4, P<sub>1</sub> 3v3-6, P<sub>2</sub> 205v7-206r2) (T no. 1082: 198a19-23)  
 gnod sbyin dang | srin po dang | bi nā<sup>141</sup> ya ka dang | bdud sdig can<sup>142</sup> dang | 'dre gdon dag  
 gis kyang gnod par<sup>143</sup> bgyid par mi 'gyur lags so || mtshon cha dang | dmag tshogs dang |  
 chab dang | zhugs dang | rlung dang | char pa dang | ser ba ma rungs pa dag gis kyang 'jigs  
 par mi 'gyur ro || dgra dang | chom rkun dang | rgyal po ma rungs pa dang | rkun po ma  
 rungs pa dag gis kyang gnod par bgyid par mi 'gyur ro || glo bur du 'chi ba'i dus byed par  
 mi 'gyur | rmi lam ngan pa rmi bar mi 'gyur | rtsangs pa dang | sbrul dang | sdig pa dang |  
 srin bu gyi med dang | rkang<sup>144</sup> mang dang | gcan gzan<sup>145</sup> gdug pa ma rungs pa dang | seng  
 ge dang | stag dang | spyang ki<sup>146</sup> dag gis<sup>147</sup> kyang gnod pa<sup>148</sup> bgyid par mi 'gyur lags so ||

【3.7.5】 [ダラニの効験④：論争における勝利]

【Tib. (Ph)】 (Ph 117r6-7) (T no. 1083: 200c25-26)

'thab mo thams cad las rgyal bar 'gyur | 'thab mo dang | 'thab pa dang | rtsod pa dang |  
 'gyed pa thams cad la lan thebs par 'gyur | thams cad du rgyal bar 'gyur te | de dag ni bton  
 pa tsam gyis 'grub cing | bton pa'i mod la don rnams 'grub par 'gyur lags so ||

【Tib. (重訳)】 (D<sub>1</sub> 131v4-5, D<sub>2</sub> 207r4-5, P<sub>1</sub> 3v6-7, P<sub>2</sub> 206r2-3) (T no. 1082: 198a23-25)

g-yul ngor 'thab pa'i tshe thams cad du rgyal bar 'gyur lags so || gal te bla'i bgyi ba dag  
 gis rtsod<sup>149</sup> par gyur na yang 'dum par 'gyur te | gzungs<sup>150</sup> 'di lan cig<sup>151</sup> bzlas na<sup>152</sup> gong du  
 bstan pa de dag thams cad yid bzhin du 'grub par 'gyur lags so ||

【3.7.6】 [ダラニの効験⑤：諸尊の顕現]

【Tib. (Ph)】 (Ph 117r7-v3) (T no. 1083: 200c26-201a1)

de nas lan brgya<sup>153</sup> rtsa brgyad bzlas brjod byas pa tsam gyis | de nyid kyi nyin mo 'phags  
 pa spyen ras gzigs kyi dbang phyug mngon sum<sup>154</sup> du ston par bgyid | dbugs 'byin par  
 bgyid | dngos grub mchog stsol bar lags so || de bzhin gshegs pa thams cad kyang sku ston  
 | de bzhin gshegs pa 'od dpag med kyang sku ston | bde ba can gyi 'jig rten gyi khams  
 legs par rgyan pa dang | gzhal med khang mtha' dag kyang mthong bar 'gyur | 'jig rten gyi  
 khams bde ba can du gnas pa'i byang chub sems dpa' so so'i 'khor gyi dkyil 'khor 'dus pa  
 rnams kyang mthong bar 'gyur | 'phags pa spyen ras gzigs kyi gnas gzhal med khang dang  
 ri bo po ta<sup>155</sup> la mthong bar 'gyur |

【Tib. (重訳)】 (D<sub>1</sub> 131v5-7, D<sub>2</sub> 207r5-v1, P<sub>1</sub> 3v7-4r3, P<sub>2</sub> 206r3-6) (T no. 1082: 198a25-b1)

gang la la zhig gis gdugs re gzungs 'di lan brgya rtsa brgyad bzlas brjod bgyis na | byang  
 chub sems dpa' spyen ras gzigs dbang phyug gis 'di skad du |

rigs kyi bu khyod ma 'jigs shig | ci zhig smon cing ci zhig yongs su gnyer bar byed |  
 thams cad khyod la sbyin no

zhes bsgo<sup>156</sup> bar 'gyur | de bzhin gshegs pa tshe dpag med kyang sku mngon du ston par  
 'gyur | mdo las gsungs pa bzhin du 'jig rten gyi khams bde ba can gyi bkod pa'i dngos po

dag kyang mthong bar 'gyur | 'jig rten gyi khams bde ba can gyi byang chub sems dpa'i  
tshogs rnams kyang mthong bar 'gyur | phyogs bcu'i sangs rgyas thams cad kyang mthong  
bar 'gyur | byang chub sems dpa' spyen ras gzigs dbang phyug gi gnas ri bo<sup>157</sup> po ta<sup>158</sup> la  
yang mthong bar 'gyur |

【3.7.7】 [ダラニの効験⑥：臨終時の見仏]

【Tib. (Ph)】 (Ph 117v3-7) (T no. 1083: 201a1-5)

lus yongs su dag par 'gyur | rgyal khams thams cad du bkur bar 'gyur lags so || 'jig rten  
thams cad kyis mthong na dga' bar 'gyur | sgrib pa dang sdig pa thams cad rnam par dag  
par 'gyur | 'chi ba'i tshe 'phags pa spyen ras gzigs dbang phyug mngon sum<sup>159</sup> du mthong  
bar 'gyur ro || gang dang gang du skyes pa de dang der rgyan thams cad kyis brgyan te  
pad ma las brdzus te skye bar 'gyur | tshe rabs thams cad du tshe rabs dran par 'gyur ro  
|| nams<sup>160</sup> kyang ngan song du skye bar mi 'gyur | sangs rgyas kyi go 'phang<sup>161</sup> thob par  
'gyur | bton pa tsam gyis<sup>162</sup> sdig pa dang sgrib pa rnams zad pa dang | bde bar gshegs pa'i  
lam rnam par dag par 'gyur lags so ||

【Tib. (重訳)】 (D<sub>1</sub> 131v7-132r3, D<sub>2</sub> 207v1-3, P<sub>1</sub> 4r3-5, P<sub>2</sub> 206r6-v1) (T no. 1082: 198b1-5)

bdag nyid kyi lus kyang yongs su dag par 'gyur bas rtag par rgyal po dang blon po rnams  
kyis bkur zhing<sup>163</sup> rim gro<sup>164</sup> bgyid par 'gyur | skye bo mang pos byams shing bkur bar  
'gyur | skye ba thams cad du ma'i mngal du mi skye zhing padma'i<sup>165</sup> steng du skye bar  
'gyur | bkod pa mchog dang ldan par 'gyur | skye ba thams cad du sngon gyi gnas rjes su  
dran par 'gyur | 'di nas mngon par rdzogs par 'tshang rgya ba'i bar du nam yang ngan 'gro  
rnams su mi ltung zhing rtag par sangs rgyas kyi spyen sngar skye bar 'gyur lags te | 'di ni  
sdig pa'i las thams cad rnam par 'joms pa'i gzungs zhes bgyi ba lags so ||

【3.8】 [章名]

【Tib. (Ph)】

(欠)

【Tib. (重訳)】 (D<sub>1</sub> 132r3, D<sub>2</sub> 207v3, P<sub>1</sub> 4r5-6, P<sub>2</sub> 206v1)

sdig pa thams cad rnam par 'joms pa'i gzungs kyi le'u ste dang po'o || ||

【4】 [第2章]<sup>166</sup>

【Tib. (Ph)】 (Ph 117v7-118r3) (T no. 1083: 201a6-13)

sems can kun la phan byed pa || mkhas pa rnams la bde sbyin pa ||  
rtag tu nor dang 'bru 'phel ba || dbang phyug phun sum tshogs byed pa ||

stobs ni 'phel byed dge ba yin || gsang ba 'di ni rab tu gsang ||  
ji ste dngos grub mchog 'dod na || shes rab can gyis bdag gis gsang ||

su la cis kyang yid mi brten || yid bzhin nor bu'i phyag rgya che ||  
bzlas pas 'grub pa bla na med || zas ni 'tshal rung ma 'tshal rung ||

de la nongs pa ci ma mchis || gtsang rung de bzhin gtsang ma rung ||  
de la nongs pa ci ma mchis || bzlas brjod las ni rtag tu bgyi ||

'jig rten mgon po'i gzugs kyi sku || yang dang yang du dran par bgyi ||  
rtag tu yid la bsgom bzhin du || yid bzhin nor bu rtag tu bzla ||

- 【Tib. (重訳)】 (D<sub>1</sub> 132r3–v1, D<sub>2</sub> 207v3–208r2, P<sub>1</sub> 4r6–v4, P<sub>2</sub> 206v1–8) (T no. 1082: 198b8–18)  
de nas byang chub sems dpa' spyan ras gzigs dbang phyug sems can la snying brtse<sup>167</sup> ba'i  
phyir yang yid bzhin gyi 'khor lo'i snying po'i gzungs gsang ba'i cho ga bstan pa su yang  
rung ba gces pa'i don grub pa zhig mchis na | thams cad rang zhi bar 'gyur lags so ||  
de yang rnam pa gnyis te | 'di lta ste | 'jig rten gyi nor dang 'jig rten las 'das pa'i nor gang  
lags so<sup>168</sup> || de la 'jig rten pa'i nor ni gser dang dngul la sogs pa'i rin po che mams so || 'jig  
rten las 'das pa'i nor ni bsod nams dang ye shes kyi bkod pa rnam<sup>169</sup> pa gnyis dang ldan  
zhing lus dang sems rab tu bde ba dang | skye bo mang pos byams shing bkur ba dang |  
sdug bsnal ba'i sems can thams cad yongs su skyob pa dang | byams pa'i sems rgyas nas  
blo dang ldan pa<sup>170</sup> nams bde ba stsol ba dang | 'tsho ba'i yo byad 'phel zhing mthu stobs  
rtag pa gang lags pa'o || gsang ba'i mdzod kyi spyod yul 'di ni gzhan dag la brjod par mi  
bgyi'o || gang la la zhig bdag gis<sup>171</sup> yid bzhin gyi 'khor lo'i gzungs kyi dngos grub mchog  
thob par 'tshal na | sems rtse gcig tu dus thams cad dang | gnas thams cad du gtsang yang  
rung | mi gtsang yang rung ste | rtag par bzlas brjod bgyis na nongs pa ci yang ma mchis  
pas bzlas brjod bgyi ba'i grangs tshang bar bgyis nas<sup>172</sup> | gzhan yang byang chub sems  
dpa' spyan ras gzigs dbang phyug gi ming dang | yid bzhin gyi 'khor lo'i gzungs kyi ming  
dang | gang zag de'i<sup>173</sup> ming nas brjod de<sup>174</sup> |

【5】 [奥書]

- 【Tib. 略本 (Ph)】 (Ph 118r3–4)

*'Phags pa spyan ras gzigs dbang phyug gi yid bzhin nor bu rdzogs s-ho* || ||

- 【Tib. 広本 (重訳)】 (D<sub>1</sub> 137r6–7, D<sub>2</sub> 213r5–6, P<sub>1</sub> 10r4–5, P<sub>2</sub> 212r3–4)

*'Phags pa byang chub sems dpa' spyan ras gzigs dbang phyug gi<sup>175</sup> gsang ba'i mdzod thogs  
pa med pa'i yid bzhin gyi 'khor lo'i snying po zhes bya ba'i gzungs rdzogs s-ho<sup>176</sup>* || ||

zhu chen gyi mkhan po dang lo tsa<sup>177</sup> ba bcom ldan 'das kyi ring lugs pa ban de<sup>178</sup> chos grub  
kyis<sup>179</sup> rgya'i dpe las bsgyur cing zhus te gtan la phab pa'o<sup>180</sup> || ||

## 和訳（ブダク写本）

## 【1】〔経題〕

『聖なる観自在の蓮華〔の蕾の形状の〕如意〔宝珠〕の輪を回すものと名づけるダラニ』。

## 【2】〔帰敬文〕

あらゆる仏・菩薩を礼拝する。

## 【3】〔第1章〕

## 【3.1】〔六成就〕

（欠）

## 【3.2】〔観自在の発言〕

その時、世尊に対して、観自在菩薩・摩訶薩は次のように申し上げた。

「世尊よ、この『明呪の廣大儀軌の大マンダラの蓮華の頂きの真言のタントラ』<sup>181</sup>に、私の精髓〔であり、〕三昧耶の加持〔であり、〕秘密〔であり、〕敵によって損なわれないもの〔である、〕『観自在の蓮華〔の蕾の形状の〕如意宝珠の輪を回すものと名づけるダラニ』〔が存在する〕。〔それは〕聖なる観自在の精髓〔にして〕最上の成就である。世尊よ、私はすべての衆生の利益を成就した最上者である。世尊の御前で〔このダラニを〕唱えることを許されるならば、そのために、世尊よ、私は明呪を思い浮かべ、あらゆる宝石の大雨〔による〕加持を〔あなたに〕差し上げます<sup>182</sup>。しかしながら、〔そのダラニは〕まさに〔一〕ヨージャナの大木と如意宝珠のように、すべての衆生の想いを完全に満たすものになるでしょう」

## 【3.3】〔世尊の発言①〕

世尊がお答えになった。

「観自在よ、私は加持を受けたので、《観自在の蓮華〔の蕾の形状〕の如意宝珠の輪を回すものという心呪》、〔すなわち〕敵によって損なわれないものを〔あなたは〕思念し、〔衆生の〕あらゆる望みを完全に満たすものをはっきりと説きなさい」

## 【3.4】〔観自在によるダラニの説示〕

続いて、聖なる観自在菩薩・摩訶薩は、世尊の足に対して頭で礼拝し、世尊〔の周囲〕を三回〔右〕繞してから、世尊の御前に座して、顔を微笑ませつつ、輝きを放つ眼を備えて、《大いなる慈悲の明呪の女王という心呪》を説いた。

namo ratnatrayāya | nama āryāvalokiteśvarāya bodhisattvāya mahāsattvāya mahākāruṇikāya  
| tadyathā | om cakravartīcintāmaṇi | mahāpadme ru ru tiṣṭhate | jvala | ākarṣāya hūṃ phaṭ  
svāhā |<sup>183</sup>

（三宝に帰依いたします。非常に慈悲深き聖なる観自在菩薩・摩訶薩に帰依いたします。それは次の通りである。オーン、転輪王の如意宝珠を持つ者よ。大いなる蓮華の上に、ル、ル、彼は住する。光焰よ。鉤召のために、フーン、パット、スヴァーハー）  
〔以上が〕根本の真言<sup>184</sup>〔である〕。

om padmacintāmañijvala hūm |<sup>185</sup>

（オーン、蓮華〔の蕾の形状〕の如意宝珠の光焰よ、フーン）  
〔以上が〕心呪〔である〕。

om varada padme hūm |<sup>186</sup>

（オーン、施与者よ、蓮華の上に〔彼は住する〕。フーン）  
〔以上が〕緊密な心呪〔である〕。

### 【3.5】〔ダラニの威力〕

続いて、《偉大なる転輪王の大いなるダラニ》が説かれるや否や、この大地が六種に振動した。すべての天の住処も振動した。すべての龍の住処をも破壊することになるであろう。すべてのヤクシャ（夜叉）とガンダルヴァとアスラ（阿修羅）とガルダとキンナラと大蛇の住処も揺れ動くであろう。すべての魔と悪しき者、〔および〕ヴィグナとヴィナーヤカたちも、〔このダラニを〕賞讃するであろう。すべての魔の住処も燃えるであろう。悪しき衆生と、悪しき龍たちと、悪しきヤクシャたちと、恐ろしきラクシャシー（羅刹女）〔たち〕を、それら〔のダラニ〕が針〔の付いた〕防具に押し倒すであろう。すべての地獄の衆生も壊滅し、傷つき、存在しないものになった。〔ダラニによって〕それら地獄の衆生たちも〔地獄を〕脱出してから天界に行き、世尊の御前で、様々な天の供養の雲〔から〕の雨を降らせた。〔すなわち〕様々な天の華、焼香、衣の装飾、香、華鬘、塗香という雨を降らせた。空中にも天の音楽を響かせて、世尊に供養の行為をなす〔であろう〕。

### 【3.6】〔世尊の発言②〕

続いて、世尊は、カラヴィンカ〔という鳥〕の鳴き声のように奥深い如来の言葉によって、聖なる観自在菩薩・摩訶薩に「善きかな」という〔以下の言葉〕を与えた。

「観自在よ、善きかな、善きかな。この《明呪の王》を説くことは、最高の装飾と最高の善を与えることであるので、大いなる心のすべての衆生のために、儀軌における作法を詳しく解説しなさい」

### 【3.7】〔観自在による儀軌の説示〕

#### 【3.7.1】〔儀軌の実修方法〕

続いて、観自在菩薩・摩訶薩は、儀軌における作法を解説した。

「世尊よ。善男子、あるいは善女人、あるいは比丘、あるいは比丘尼、あるいは優婆塞、あるいは優婆夷、〔それらの〕誰でも成果を直ちに獲得するので、如意宝珠の印契



に勤しむべきである。

〔この儀軌では〕日付を星宿と合わせる必要はない。斎戒の儀軌を行う必要はない。沐浴と新しい衣服を身につける必要はない。そのように成就する儀軌ではない。まさに唱えることで成就して、念誦のみで疑いはない。<sup>187</sup>

千の修法と、同様に百の修法をも行う。如意宝珠のような明呪は、対等な如何なるものも存在しない<sup>188</sup>

### 【3.7.2】〔ダラニの効験①：悪業と障碍の除去〕

「前〔世〕の積み重なった障碍と、前〔世〕の悪〔業〕がなくなり、それゆえ、念誦を行っただけで、あらゆる利益を成就するであろう。<sup>189</sup>

読誦するだけで、無間地獄に行くという諸々の悪〔業〕が、直ちに消え去るであろう。<sup>190</sup>

間断なき悪〔業〕と障碍が清められ、完全に尽きるであろう。あらゆるものが完全に尽きるであろう」

### 【3.7.3】〔ダラニの効験②：病の回避〕

「あらゆる病から逃れられるであろう。読誦するだけで、一晩の疫病、二晩〔の疫病〕、三晩〔の疫病〕、四晩〔の疫病〕、風から生じた〔疫病〕、胆液から生じた〔疫病〕、唾液から生じた〔疫病〕、集団から生じた〔疫病〕、常態的な疫病、疫病と結び付いた疲労、夜の疫病、日中の疫病、〔以上の〕すべてを完全に免れるであろう。矢〔の〕毒、混合毒、呪詛、〔それら〕すべてによって損なわれないであろう。また、腫瘍、水疱、潰瘍、足の湿疹、疥癬、ハンセン病、皮膚病、氣息の乱れによって損なわれないであろう。また、歯の病、眼の病、口の病、身体の病、〔指などの〕身体の小部分の病、腹の病、頭の病、半身の病によって決して損なわれないであろう」

### 【3.7.4】〔ダラニの効験③：身体の保護〕

「身体を悪魔によって損なわれないであろう。ヤクシャ（夜叉）、ラクシャス（羅刹）、ブータ、ピシャーチャ、欲望を増加させる肉体を持つダーキニー、ヴィグナ、ヴィナーヤカ、魔の部族は、〔このダラニを〕読誦した者を決して見つけられないであろう。身体を多くの毒、武器、火、水、風、雷によって損なわれないであろう。盗人の恐れ、盗賊の恐れ、王の恐れ、敵軍の恐れ、敵対者の恐れ、敵の恐れ、対戦者の恐れは生じないであろう。時ならぬ逝去の恐れは生じないであろう。悪夢を見ることはないであろう。悪人の恐れ、毒蛇の恐れ、ナーラーヤナ（那羅延）の恐れは生じないであろう」

【3.7.5】 [ダラニの効験④：論争における勝利]

「あらゆる論争に勝利するであろう。論争、論戦、口論、舌戦、[以上の] すべてにおいて返答できるであろう<sup>191</sup>。[それら] すべてに勝利するのである。すなわち、それらは [ダラニを] 読誦するだけで成就するのであり、読誦の直後に諸々の利益を成就するであろう」

【3.7.6】 [ダラニの効験⑤：諸尊の顕現]

「続いて、108回 [ダラニを] 念誦するだけで、まさにその日 [のうちに] 聖なる観自在が [行者の] 眼前に [姿を] 現し、安慰し、最高の悉地を下賜する [であろう]。すべての如来も姿を現す [であろう]。阿弥陀如来も姿を現す [であろう]。装飾された極楽世界と、すべての楼閣も現れるであろう。各々の集會に集まった極楽世界に住する菩薩たちも現れるであろう。聖なる観自在の住処、[すなわち] 楼閣と補陀落山が現れるであろう」

【3.7.7】 [ダラニの効験⑥：臨終時の見仏]

「[行者の] 身体が、完全に清められるであろう。国土全体において [観自在を] 祭るであろう。全世界は [観自在が] 現れたことを喜ぶであろう。すべての障碍と悪 [業] が清められるであろう。臨終の際に、聖なる観自在が眼前に見えるであろう。どのような人でも、[来世は] あらゆる装飾によって飾られ、蓮華から変化して生まれるであろう。すべての [輪廻における] 生存期間において、[過去] 世を思い出すであろう。悪趣に決して生まれないであろう。仏の位を獲得するであろう。[ダラニを] 読誦するだけで、諸々の悪 [業] と障碍が尽き、愛樂に進む道が消え去るであろう」

【3.8】 [章名]

(欠)

【4】 [第2章]

「[そのダラニは] すべての衆生に役立つ。諸々の賢者に安樂を与える。常に財物と穀物が増殖する。自在を成就する。<sup>192</sup>

力が増大することは、善である。この秘密は、しっかりと隠すべきである。もし最高の悉地を欲するならば、智慧を有することで、自身が [この秘密を] 隠すべきである。<sup>193</sup>

誰でも、決して心を抛り所としないであろう。如意宝珠の偉大なる印契 [を結び]、[ダラニを] 念誦することによって、無上の成就 [を得られるであろう]。食物は

欲してもよいし、欲さなくてもよい。<sup>194</sup>

それ（食物）に過失は何もない。清浄にしてもよいし、同様に、清浄にしなくてもよい。それ（浄・不浄）に過失は何もない。念誦〔の〕修法を常に行うべきである。<sup>195</sup>

世界の主（観自在）の色身を、繰り返し想起すべきである。常に心で観想するように、如意宝珠〔のダラニ〕を常に念誦すべきである<sup>196</sup>

### 【5】〔奥書〕

『聖なる観自在の如意宝珠』、完。

### 略号表

add.	added in（当該の写本・版本で、対応箇所が書き加えられている）
conj.	conjecture（筆者が提案する読み。em. より蓋然度が低い）
D	sDe dge edition（デルゲ版チベット大蔵経）
D <sub>1</sub>	D no. 692
D <sub>2</sub>	D no. 898
em.	emendation（筆者が想定する読み。conj. より蓋然度が高い）
om.	omitted in（当該の写本・版本が、対応箇所を欠いている）
P	Peking edition（北京版チベット大蔵経）
P <sub>1</sub>	P no. 370
P <sub>2</sub>	P no. 523
Ph	Phug brag manuscript（プダク写本チベット大蔵経）
r	recto（写本・版本の表面）
T	Taishō Shinshū Daizōkyō（大正新脩大蔵経）
v	verso（写本・版本の裏面）

### 一次文献

'Phags pa 'jig rten dbang phyug gi yid bzhin gyi nor bu 'khor los sgyur ba'i sgrub thabs  
[Tib.] D no. 2849, P no. 3670.

'Phags pa spyān ras gzigs dbang phyug gi yid bzhin nor bu ('Phags pa spyān ras gzigs dbang  
phyug gi pad ma yid bzhin gyi 'khor los sgyur ba zhes bya ba'i gzungs)  
[Tib.] Ph no. 508, ma 114v7–118r3 (#913 20A–D/55).

'Phags pa spyān ras gzigs dbang phyug gi gsang ba'i mdzod thogs pa med pa'i yid bzhin gyi  
'khor lo'i snying po zhes bya ba'i gzungs

[Tib.] rgyud 'bum: D no. 692, P no. 370. gzungs 'dus: D no. 898, P no. 523.

『如意輪陀羅尼經』

[Ch.] T no. 1080 (vol. 20), translated by 菩提流志

『佛說觀自在菩薩如意心陀羅尼呪經』

[Ch.] T no. 1081 (vol. 20), translated by 義淨

『觀世音菩薩祕密藏如意輪陀羅尼神呪經』

[Ch.] T no. 1082 (vol. 20), translated by 實叉難陀

『觀世音菩薩如意摩尼陀羅尼經』

[Ch.] T no. 1083 (vol. 20), translated by 寶思惟

## 二次文献

岩本裕

[1978] 『佛教説話の伝承と信仰』, 佛教説話研究 3, 開明書院.

上山大峻

[1963] 「敦煌出土法成譯『菩薩律儀二十頌』並に『八轉聲頌』について」,  
『印度学仏教学研究』11 (2): pp. 715–721.

大塚伸夫

[2013] 『インド初期密教成立過程の研究』, 春秋社.

加納和雄

[2010] 「チョムデンリクレル著『大乘究竟論莊嚴華』——和訳および校訂テキスト(1)  
——」, 『高野山大学論叢』45: pp. 13–35.

加納和雄・中村法道

[2009] 「チョムデンリクレル著『弥勒法の歴史』——テキストと和訳——」,  
*Acta Tibetica et Buddhica* 2: pp. 117–139.

川越英真

[2005a] *dKar chag 'Phang thang ma*, 東北インド・チベット研究会.

[2005b] 「『パンタン目録』の研究」, 『日本西藏学会会報』51: pp. 115–131.

佐久間留理子

[2011] 『インド密教の観自在研究』, 山喜房佛書林.

[2015] 『観音菩薩——変幻自在な姿をとる救済者——』, 春秋社.

佐藤直実

[2008] 『蔵漢訳『阿閼佉国経』研究』, 山喜房佛書林.

白崎頭成

[1980] 「Jitāri の『無量寿仏九導法』について」, 『佛教論叢』24: pp. 107–112.

[1981] 「Jitāri と Śāntideva と Prabhākarakīrti」, 『印度学仏教学研究』29 (2):  
pp. 898 (80)–894 (84).

名取玄喜

- [2014] 『菩提場莊嚴陀羅尼經』の2つの蔵訳テキストについて」,  
『佛教文化学会紀要』23: pp. 199–215.

西岡祖秀

- [1983] 『プトゥン仏教史』目録部索引 III」,  
『東京大学文学部文化交流研究施設研究紀要』6: pp. 47–200.

朴亨國

- [2001a] 「東南アジアの変化観音について」,  
『観音菩薩像の成立と展開——変化観音を中心にインドから日本まで——』,  
シルクロード学研究 11: pp. 73–88.
- [2001b] 「中国の変化観音について」,  
『観音菩薩像の成立と展開——変化観音を中心にインドから日本まで——』,  
シルクロード学研究 11: pp. 89–115.
- [2002] 「如意輪観音像の成立と展開——インド・東南アジア・中国——」,  
『佛教藝術』262: pp. 68–98.

宮治昭

- [2001] 「観音菩薩像の成立と展開——インドを中心に——」,  
『観音菩薩像の成立と展開——変化観音を中心にインドから日本まで——』,  
シルクロード学研究 11: pp. 13–51.

森安孝夫

- [2000] 「歐州所在中央アジア出土文書・遺品の調査と研究」, 『東方学』99: pp. 122–134.

芳村修基

- [1954] 「西域出土の法成師文献」, 『印度学仏教学研究』3 (1): pp. 296–298.

EIMER, Helmut

- [1993] *Location List for the Texts in the Microfiche Edition of the Phug brag Kanjur: Compiled from the Microfiche Edition and Jampa Samten's Descriptive Catalogue*, Bibliographia Philologica Buddhica V, Tokyo: The International Institute for Buddhist Studies.

LALOU, Marcelle

- [1953] “Les textes bouddhiques au temps du roi Khri-sroñ-lde-bcan,” *Journal Asiatique* CCXLI: pp. 313–353.

SAMTEN, Jampa

- [1992] *A Catalogue of the Phug-brag Manuscript Kanjur*, Dharamsala:  
Library of Tibetan Works & Archives.

SCHAEFFER, Kurtis R. and Leonard W. J. van der KUIJP

- [2009] *An early Tibetan survey of Buddhist literature: the bsTan pa rgyas pa rgyan gyi nyi 'od of bCom ldan ral gri*, Harvard oriental series 64, London: The Department of Sanskrit and Indian Studies, Harvard University.

- 1 Ph no. 508 の経典名について、【1】〔経題〕には '*Phags pa spyan ras gzigs dbang phyug gi pad ma yid bzhin gyi 'khor los sgyur ba zhes bya ba 'i gzungs*（『聖なる観自在の蓮華〔の蕾の形状の〕如意〔宝珠〕の輪を回すものと名づけるダラニ』）と、【5】〔奥書〕には '*Phags pa spyan ras gzigs dbang phyug gi yid bzhin nor bu*（『聖なる観自在の如意宝珠』）と、それぞれ記されている。なお、EIMER [1993] p. 47 では、【1】における表記が採用されている。
- 2 佐久間 [2011] p. 57 が指摘するように、漢訳の年代を根拠として、インドにおける如意輪観音に対する信仰は、遅くとも 7 世紀末頃には成立していたと考えられている。
- 3 先行研究のうち、岩本 [1978] p. 153 や佐久間 [2015] pp. 139–140 で重訳が存在することに言及されている程度で、ほとんどの先行研究では重訳の存在自体が認識されていない。そのため、重訳の基礎情報や特徴などについては、未解明であった。
- 4 プダク写本には、「漢訳経典からチベット語訳された重訳」（D nos. 692, 898; P nos. 370, 523）は収録されていない。
- 5 Chos grub（法成）は、9 世紀前半頃に活躍した吐蕃の訳経僧である。上山 [1963] p. 715 が指摘するように、Chos grub は、①「漢訳からのチベット語訳」だけではなく、②「チベット語訳からの漢訳」も行っており、多数の翻訳物が知られている。このうち、①に関しては、管見のおよぶ限りでは、D nos. 108, 354, 555, 691, 692, 694, 897, 898, 4016（P nos. 776, 1023, 174, 369, 370, 374, 522, 523, 5517）といった 9 本が挙げられる。また、これらのうち、「D no. 691 と D no. 897」、「D no. 692 と D no. 898」に関しては、同一の経典を翻訳したものである。他方、②に関しては、芳村 [1954] p. 298 にリストアップされている。
- 6 詳細については、本稿の「3 チベット語訳校訂テキストおよび和訳」に記載した重訳の校訂テキストを参照されたい。
- 7 Jitāri は、密教に関する 16 本の著作を残している。それらは、白崎 [1981] pp. 80 (898)–81 (897) にリストアップされている。
- 8 SAMTEN [1992] pp. xxiii–xxx は、25 本の文献が、プダク写本チベット大蔵経にのみ収録されていると指摘している。具体的には、Ph nos. 111, 197, 218, 444, 454, 455, 508, 549, 550, 555, 756, 757, 759, 760, 761, 762, 763, 764, 765, 766, 770, 771, 772, 773, 774 が挙げられている。しかし、SAMTEN [1992] による指摘には、部分的な修正が必要である。例えば、Ph no. 111 に関しては、EIMER [1993] p. 14 によって、「トクパレス写本 no. 268, ウランバートル写本 no. 316」と対応すると指摘されている。さらに、Ph no. 549 に関しては、筆者の調査によって、「D no. 1067, P no. 693」と一致することが判明した。その上、Ph no. 550 に関しては、名取 [2014] p. 201 によって、敦煌写本にも同一経典のチベット語訳が現存することが指摘されている。
- 9 實叉難陀訳（全 6 章）と菩提流志訳（全 10 章）とでは、章が区分される位置が異なっている。具体的には、前者の第 1 章と後者の第 1～2 章、前者の第 2 章と後者の第 3 章、前者の第 3 章と後者の第 6 章、前者の第 4 章と後者の第 7 章、前者の第 5 章と後者の第 8 章、前者の第 6 章と後者の第 9～10 章、といった具合に対応している。なお、義浄訳と實思惟訳は、本文が章によって区分されていない。
- 10 成立年代に関しては、川越 [2005b] p. 126 を参照。
- 11 加納 [2010] p. 15 が言及するように、bCom ldan ral gri は、サキヤ寺において Sa skya Paṇḍita

- (1182–1251年)などに師事して学問を修めた後、ナルタン寺を拠点として活躍した人物であり、チベット大蔵経目録を編纂した人物として知られている。また、加納・中村 [2009] pp. 118–119 (注7) が指摘するように、bCom ldan ral gri は、bCom ldan rig pa'i ral gri や bCom ldan rig ral と呼ばれることも多い。
- 12 当該の大蔵経目録の成立年代については、SCHAEFFER and van der KUIJP [2009] p. 51 を参照。
- 13 SCHAEFFER and van der KUIJP [2009] p. 141 では、nos. 8.18, 8.19, 8.18, 8.20, 8.22 の順で通番が付されているが、nos. 8.18, 8.19, 8.20, 8.21, 8.22 の誤記であると判断した。
- 14 重訳のうち P<sub>1</sub> を例とすると、重訳全体は「1v1–10r5」という範囲であるが、Ph と対応するのは「1v1–4v4」までの範囲である。このように、重訳は Ph の約 2.5 倍の文章量である。この比率は、2 系統の śloka の文章量の比率 (105 対 240) とおおよそ一致する。
- 15 川越 [2005a] p. 80 には、「[A] no. 352」、「[B] no. 312」、「[D] no. 1158」が対応すると記されているが、筆者も同意見である。これに対して、SCHAEFFER and van der KUIJP [2009] p. 141 には、「D no. 692」、「[A] no. 343」、「[C] no. 8.18」、「[D] no. 1158」が対応すると記されているが、「[D] no. 1158」は「105 śloka の略本」であるので、他の「240 śloka の広本」と同一視することはできないと判断した。さらに、SAMTEN [1992] p. xxv は、⑥『聖なる観自在の如意宝珠』と「[A] no. 343」とが対応すると主張しているが、文章量という観点から、「[A] no. 352」と対応すると考える方が妥当であると判断した。
- 16 Cf. 佐久間 [2011] pp. 57–58.
- 17 Cf. 岩本 [1978] pp. 168–172.
- 18 Cf. 森安 [2000] p. 130.
- 19 D 189v3–4, P 220v5:  
om tsinta (tsinta ] D; tsin ta P) ma ñi (ñi ] D; ni P) tsakra barti (barti ] D; bā ti P) ma ñi (ñi ] D; ni P) padme  
āḥ hrīḥ (hrīḥ ] D; hīḥ P) hūṃ phaṭ swā hā (swā hā ] D; swāhā P) |
- 20 Cf. 白崎 [1980] p. 110. なお、佐久間 [2011] p. 74 (注 93) が指摘するように、同論文のサンスクリット語表記に誤植 (Avalokiteśvara) が見られるため、修正した上で引用した。
- 21 朴 [2002] p. 79 では、インドネシアのジャカルタ国立中央博物館所蔵像 (No. 644a) について検討が行われているが、当該の像は一面四臂であり、左第一手は胸前で宝珠を執っている。この宝珠について、朴 [2002] p. 97 (注 82) は、「蓮華の蕾に近い形の宝珠である可能性が高いと判断した」と述べている。このことを根拠として、語句を補った。
- 22 「如意宝珠の輪」に関しては、「複数の如意宝珠を輪状に連ねたもの」を意図していると判断した。その上で、それを「回す」とは、「数珠を繰るように動かすこと」であると推測した。
- 23 D の刊本には数種あるが、本稿では原則として、*The Tibetan Tripitaka: Taipei Edition* (Taipei: SMC Publishing Inc., 1991) を用いた。
- 24 bod skad du | ] D<sub>1</sub>; om. D<sub>2</sub> P<sub>12</sub>
- 25 pa 'i ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; par P<sub>2</sub>
- 26 2 系統のチベット語訳のうち、重訳は全 6 章から構成されているが、プダク写本では本文が章によって区分されていない。本稿では便宜上、重訳に従って章を分けた。
- 27 pa ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; pa 'i P<sub>2</sub>

- 28 *gcig* ] P<sub>12</sub>; *cig* D<sub>12</sub>
- 29 *gyis* ] em.; *gyi* Ph
- 30 *gi* ] em.; *kyi* Ph
- 31 *gi* ] conj.; *gis* Ph
- 32 *gis* ] conj.; *gi* Ph
- 33 *gyis* ] em.; *gyi* Ph
- 34 *sa* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *la* P<sub>2</sub>
- 35 *padma du ma* ] D<sub>12</sub>; *pa du* P<sub>1</sub>; *pa du me* P<sub>2</sub>
- 36 *tsandana* ] D<sub>12</sub> P<sub>2</sub>; *tsan dana* P<sub>1</sub>
- 37 *mngon* ] D<sub>12</sub> P<sub>2</sub>; *mngan* P<sub>1</sub>
- 38 *gyis brlabs* ] D<sub>1</sub>; *gyi brlabs* D<sub>2</sub>; *gyi rlabs* P<sub>1</sub>; *gyis rlabs* P<sub>2</sub>
- 39 *kyis* ] em.; *kyi* Ph
- 40 *gi* ] em.; *gis* Ph
- 41 *los* ] em.; *lo* Ph
- 42 *tshugs* ] em.; *thub* Ph
- 43 *pa* ] conj.; *pa'i* Ph
- 44 *cig* ] conj.; *cing* Ph
- 45 *bzhin* ] em.; *gzhin* Ph
- 46 *'dzum* ] em.; *mdzum* Ph
- 47 *ārya* ] em.; *arya* Ph
- 48 *rā* ] em.; *ra* Ph
- 49 *twā* ] em.; *dha* Ph
- 50 *twā* ] em.; *hā* Ph
- 51 *kā* ] em.; *ka* Ph
- 52 *kā* ] em.; *ka* Ph
- 53 *ya* ] em.; *yā* Ph
- 54 *tā* ] em.; *twa* Ph
- 55 *ni* ] em.; *ni* Ph
- 56 *tiṣṭha te* ] em.; *tī ṣṭha* Ph
- 57 *dzwa* ] conj.; *dza* Ph
- 58 *ā kar ṣā ya* ] conj.; *a kar shā ya* Ph
- 59 *tā* ] em.; *ta* Ph
- 60 *da* ] conj.; *dha* Ph
- 61 *ste* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *te* P<sub>2</sub>
- 62 *'dus* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *ba dus* P<sub>2</sub>



- 63 *ratna* ] D<sub>12</sub>; *rad na* P<sub>12</sub>
- 64 *bo dhi* ] D<sub>1</sub> P<sub>12</sub>; *bodhi* D<sub>2</sub>
- 65 *satwā* ] D<sub>1</sub> P<sub>2</sub>; *sa twā* D<sub>2</sub> P<sub>1</sub>
- 66 *satwā* ] D<sub>1</sub> P<sub>12</sub>; *sa twā* D<sub>2</sub>
- 67 *kā* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *ka* P<sub>2</sub>
- 68 *barti tsintā* ] D<sub>1</sub>; *ba ti tsintā* D<sub>2</sub>; *ba ti tsin ta* P<sub>12</sub>
- 69 *ma hā* ] D<sub>12</sub> P<sub>2</sub>; *mahā* P<sub>1</sub>
- 70 *padme* ] D<sub>12</sub>; *pa du me* P<sub>12</sub>
- 71 *tiṣṭha* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *tiṣṭha* P<sub>2</sub>
- 72 *te* ] D<sub>12</sub>; *ta* P<sub>12</sub>
- 73 *ā ka rā ya* ] D<sub>12</sub>; *ā kar sha ma* P<sub>1</sub>; *a ka ra sha me* P<sub>2</sub>
- 74 *swā hā* ] D<sub>12</sub> P<sub>2</sub>; *swāhā* P<sub>1</sub>
- 75 *padme | tsintā ma ṇi* ] D<sub>12</sub>; *pa du me | tsan dra maṇi* P<sub>1</sub>; *pa du me | tsan dra me ṇi* P<sub>2</sub>
- 76 *ma hā* ] D<sub>12</sub> P<sub>2</sub>; *mahā* P<sub>1</sub>
- 77 *bha ra* ] D<sub>12</sub> P<sub>2</sub>; *bhara* P<sub>1</sub>
- 78 *padme* ] D<sub>12</sub>; *pa du me* P<sub>12</sub>
- 79 *lags* ] D<sub>12</sub> P<sub>2</sub>; om. P<sub>1</sub>
- 80 *bshig* ] em.; *shig shig* Ph
- 81 *'phye* ] em.; *che* Ph
- 82 *rungs* ] em.; *rung* Ph
- 83 *par* ] em.; *bar* Ph
- 84 *bsngags* ] em.; *sngags* Ph
- 85 *rungs* ] em.; *rung* Ph
- 86 *rungs* ] em.; *rung* Ph
- 87 *spyān* ] em.; *sbyān* Ph
- 88 *tu* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *du* P<sub>2</sub>
- 89 *gyur* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *'gyur* P<sub>2</sub>
- 90 *mi 'am* ] D<sub>1</sub>; *mi 'am* D<sub>2</sub> P<sub>12</sub>
- 91 *dngangs shing* ] em.; *dngang zhing* D<sub>12</sub> P<sub>12</sub>
- 92 *gyur* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *'gyur* P<sub>2</sub>
- 93 *par* ] P<sub>2</sub>; *pa* D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>
- 94 *bing* ] em.; *ping* Ph
- 95 *chen* ] conj.; *can* Ph
- 96 *kyis* add. D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>
- 97 *kyis* ] D<sub>2</sub> P<sub>2</sub>; *kyi* D<sub>1</sub> P<sub>1</sub>

- 98 *bsngags* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *sngags* P<sub>2</sub>
- 99 *kyi* ] D<sub>12</sub> P<sub>2</sub>; *gyi* P<sub>1</sub>
- 100 *cho ga* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *chog* P<sub>2</sub>
- 101 菩提流志訳では、この箇所 (T no. 1080: 189b8) から「第 2 章」の本文が開始されている。
- 102 *phyug* ] em.; *pyug* Ph
- 103 *bu'am* ] em.; *bu'am* Ph
- 104 *mo'am* ] em.; *mo'am* Ph
- 105 *ma'am* ] em.; *ma'am* Ph
- 106 *bsnyen ma'am* ] em.; *snyen ma'am* Ph
- 107 *smyung* ] em.; *bsmyung* Ph
- 108 *bu'am* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *bu'am* P<sub>2</sub>
- 109 *mo'am* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *mo'am* P<sub>2</sub>
- 110 *ma'am* ] D<sub>12</sub>; *ma'am* P<sub>12</sub>
- 111 *ma'am* ] D<sub>12</sub>; *ma'am* P<sub>12</sub>
- 112 *khye'u'am* ] D<sub>12</sub>; *khye'u'am* P<sub>12</sub>
- 113 *gtsang* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *btsad* P<sub>2</sub>
- 114 *gyur* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *'gyur* P<sub>2</sub>
- 115 *bskrun* ] D<sub>12</sub>; *bsgrun* P<sub>12</sub>
- 116 *ci'i* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *ca'i* P<sub>2</sub>
- 117 *ba* add. P<sub>2</sub>
- 118 *pa* add. P<sub>1</sub>
- 119 *pa* ] D<sub>1</sub> P<sub>1</sub>; om. D<sub>2</sub> P<sub>2</sub>
- 120 *lta* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *lha* P<sub>2</sub>
- 121 *ldan* ] conj.; *ldang* Ph
- 122 *stems* ] em.; *sdems* Ph
- 123 *gzhogs* ] em.; *gzhog* Ph
- 124 *rims* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *rim* P<sub>2</sub>
- 125 *ba'am* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *ba'am* P<sub>2</sub>
- 126 *mkhris pa'am* ] D<sub>12</sub>; *khris pa'am* P<sub>1</sub>; *mkhris pa'am* P<sub>2</sub>
- 127 *'tshal* ] D<sub>1</sub> P<sub>12</sub>; *'chal* D<sub>2</sub>
- 128 *stems kyis* ] D<sub>12</sub>; *stems gyis* P<sub>1</sub>; *stem gyis* P<sub>2</sub>
- 129 *dam* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *dang* P<sub>2</sub>
- 130 *pa'am* ] D<sub>12</sub>; *pa'am* P<sub>12</sub>
- 131 *klad* ] D<sub>12</sub> P<sub>2</sub>; *glad* P<sub>1</sub>
- 132 *ba'am* ] D<sub>2</sub>; *ba'am* D<sub>1</sub> P<sub>12</sub>

- 133 *klad* ] D<sub>12</sub> P<sub>2</sub>; *glad* P<sub>1</sub>  
 134 *'tshal* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *mtshal* P<sub>2</sub>  
 135 *bsgyur* ] conj.; *bsgur bsgyur* Ph  
 136 *kyi* ] em.; *kyis* Ph  
 137 *ba'i* ] em.; *bas* Ph  
 138 *ba'i* ] em.; *bas* Ph  
 139 *ba'i* ] em.; *bas* Ph  
 140 *kyi* ] em.; *kyis* Ph  
 141 *nā* ] D<sub>12</sub> P<sub>2</sub>; *na* P<sub>1</sub>  
 142 *can* ] D<sub>12</sub> P<sub>2</sub>; *can can* P<sub>1</sub>  
 143 *par* ] D<sub>1</sub> P<sub>1</sub>; *pa* D<sub>2</sub> P<sub>2</sub>  
 144 *rkang* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *rgang* P<sub>2</sub>  
 145 *gzan* ] D<sub>12</sub>; *zan* P<sub>12</sub>  
 146 *ki* ] D<sub>12</sub> P<sub>2</sub>; *gi* P<sub>1</sub>  
 147 *gis* ] D<sub>12</sub> P<sub>2</sub>; om. P<sub>1</sub>  
 148 *gnod pa* ] D<sub>12</sub> P<sub>2</sub>; *gnod par* P<sub>1</sub>  
 なお、D<sub>2</sub> に関しては、*The Tibetan Tripitaka: Taipei Edition* では *gnod pa* の箇所が判読できないため、高野山大学監修『高野山大学図書館蔵 デルゲ版西藏大蔵経マイクロフィルム』（マイクロシステムサービス、1976）を用いて判読した。
- 149 *rtsod* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *rtson* P<sub>2</sub>  
 150 *gzungs* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *gzugs* P<sub>2</sub>  
 151 *cig* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *gcig* P<sub>2</sub>  
 152 *na* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *nas* P<sub>2</sub>  
 153 *brgya* ] em.; *rgya* Ph  
 154 *sum* ] em.; *gsum* Ph  
 155 *ta* ] em.; *ṭa* Ph  
 156 *bsgo* ] D<sub>1</sub> P<sub>1</sub>; *bgo* D<sub>2</sub> P<sub>2</sub>  
 157 *bo* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; om. P<sub>2</sub>  
 158 *ta* ] D<sub>1</sub> P<sub>12</sub>; *ṭa* D<sub>2</sub>  
 159 *sum* ] em.; *gsum* Ph  
 160 *nams* ] em.; *nam* Ph  
 161 *'phang* ] em.; *'phangs* Ph  
 162 *gyis* ] em.; *gyi* Ph  
 163 *mi* add. P<sub>1</sub>  
 164 *gro* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *'gro* P<sub>2</sub>

165 *padma'i* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *pad ma'i* P<sub>2</sub>

166 Ph では、この箇所では本文が終わっている。これに対して、漢訳(菩提流志訳、實叉難陀訳、寶思惟訳)と重訳では、当該の章の本文は、この箇所以降も続いている。なお、義浄訳における当該箇所は、他の漢訳やチベット語訳よりも文章量が少なく、内容も一致していない。また、菩提流志訳では、この箇所 (T no. 1080: 189c22) から「第3章」が開始されている。

167 *brtse* ] D<sub>12</sub> P<sub>2</sub>; *rtse* P<sub>1</sub>

168 *so* ] D<sub>1</sub> P<sub>1</sub>; *pa'o* D<sub>2</sub> P<sub>2</sub>

169 *rnam* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *rnams* P<sub>2</sub>

170 *pa* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *pa'i* P<sub>2</sub>

171 *gis* ] P<sub>12</sub>; *gi* D<sub>12</sub>

172 *nas* ] D<sub>12</sub> P<sub>2</sub>; *na* P<sub>1</sub>

173 *de'i* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *nga'i* P<sub>2</sub>

174 *de* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *do* P<sub>2</sub>

175 *gi* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *gis* P<sub>2</sub>

176 *s-ho* ] P<sub>2</sub>; *so* D<sub>12</sub>; *s-to* P<sub>1</sub>

177 *lo tsa* ] em.; *lotstsha* D<sub>12</sub>; *lo tstsha* P<sub>12</sub>

178 *ban de* ] P<sub>1</sub>; *bande* D<sub>12</sub>; *ban dhe* P<sub>2</sub>

179 *kyis* ] D<sub>12</sub> P<sub>1</sub>; *gyis* P<sub>2</sub>

180 *pa'o* ] P<sub>12</sub>; *pa* D<sub>12</sub>

181 『聖なる観自在の如意宝珠』が、より大きな経典から抜粋されたものであることを示している。これに関連して、4種類の漢訳のうち、菩提流志訳の経題の箇所 (T no. 1080: 188b17) にのみ、「如意輪陀羅尼經 (此經出大蓮華金剛三昧耶加持祕密無障礙經)」という同趣旨の記述が存在する。ただし、密教経典では、経典の権威を高めるために、架空の大部の経典に言及する場合もあるので、当該の記述の真偽に関しては、現時点では判断することができない。

182 Ph では、観自在が世尊に加持を行うと記されている。これに対して、漢訳と重訳では、世尊が観自在に加持を行うと記されている。

183 重訳におけるダラニの音写を還梵すると、以下のようになる。

*namo ratnatrayāya | nama āryāvalokiteśvarāya bodhisattvāya mahāsattvāya mahākāruṇikāya | tadyathā | om cakravartīcintāmaṇi | mahāpadme ru ru tiṣṭhate | vajrabhara | ākarāya hūṃ svāhā |*

184 一般的に、如意輪観音の「根本ダラニ」と呼称されている。

185 重訳におけるダラニの音写を還梵すると、以下のようになる。

*om padme | cintāmaṇi mahāvajrabhara hūṃ |*

186 重訳におけるダラニの音写を還梵すると、以下のようになる。

*om bharata padme hūṃ |*

187 当該箇所が、漢訳と重訳では散文になっている。

188 当該箇所が、漢訳と重訳では散文になっている。

189 当該箇所が、漢訳と重訳では散文になっている。

- 190 当該箇所が、漢訳と重訳では散文になっている。
- 191 Phでは、「返答できるであろう」という語句が存在することから、論争を想定している。これに対して、漢訳と重訳では、物理的な戦闘行為も含むと解釈されている。
- 192 当該箇所が、漢訳と重訳では散文になっている。
- 193 当該箇所が、漢訳と重訳では散文になっている。
- 194 当該箇所が、漢訳と重訳では散文になっている。
- 195 当該箇所が、漢訳と重訳では散文になっている。
- 196 当該箇所が、漢訳と重訳では散文になっている。

(本稿執筆に際して、岡田英作氏(愛媛大学特定研究員)のご厚意により、複数の資料を複写して頂いた。この場にて、岡田氏に厚く御礼申し上げたい。)

(本研究は、平成30年度中野義照博士奨学金による研究成果の一部である。)

〈キーワード〉 如意輪観音, Cakravartīcintāmaṇi, プダク写本, 重訳, 法成.

